

新「共通特論 I」：臨床腫瘍学総論
ゲノム異常からみた発がんのメカニズム～治療・診断戦略を知る～

講義日：2022年5月21日（土）

講師：土屋 直人（国立がん研究センター研究所・分子発がん研究ユニット長）

要旨

400 字程度でご記入下さい。

がんは我が国の死因の第 1 位であり、死亡率の低減化のためには、革新的ながん治療法や診断法を開発することが必要である。そのためには、がん細胞が何者であるかを知り、適切な方法で排除する戦略を立てることが重要である。一方で、がん発生メカニズムの全容を理解することは、極めて難しい研究課題でもある。がんは遺伝子の病気であり、がん細胞では多くの遺伝子に異常が生じている。本講義では、がん発生要因について、“遺伝子異常≒遺伝子のキズ”という観点で“がんって何？”という問題を考えてみたい。がんゲノム診断が実臨床にも応用され、ゲノム異常に基づいた治療法の選択も可能になってきた。がん細胞の増殖・維持に必要な“ドライバーがん遺伝子”を標的とした治療法や、“がん抑制遺伝子”を標的とした治療薬開発の原理についても考察したい。最後に、血液でがんを診断する“リキッドバイオプシー”についての将来遠望についても考えてみたいと思う。